

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

トルコより娘への電話 島田 敏晃 夫の料理 都築 洋子
鳩 中下 雪江 麻雀の友 宮下 修

美しい国を夢みる

お 太
た 田
せい 誠
いち 一

今私達の世代で後世に残る不名誉なものとして財政赤字が思い浮かぶ。この返済の為に20数兆円が国債費として新聞にも載り、改めて額の大きさが思い知らされる。これが返済の為になく社会保障費等に使われるなら、今の若い人の将来はもっと明るくなる筈である。自分の年金がどうなるか不安を持つという事は、我々の時代には考えもしなかった。

一方今の社会を振り返るとデフレの中で原発、格差社会、日中の対立等暗い影もさしている。今一度原点に戻り明治時代を振り返ると、一つは祖国防衛戦争というべき日露戦争があるが、富国強兵のための強い目的意識と実行力を発揮し僅か30数年で一定の国家体制を整えた。陸軍は露国の10分の1強の兵力にも拘らず善戦、海軍はバルチック艦隊を完全に打ち破ることで戦勝を世界に認めさせた。この輝かしい戦勝に対し陸軍はその経過を正確に分析し後世に遺せば、素晴らしい戦史が生まれたと思う。

戦史を書く際横槍が各方面より入り結局真実が書かれず事なかれの官僚的な文章になっってしまった。これが文章だけでなく正確な成果を後世に引継げずに悪影響を与える事となった。戦略面で力を持つ参謀に於いても創意工夫の無い型を尊重する結果を生み太平洋戦争にも影響を与えたと解釈されている。明治という困難な中で祖先の偉業は大きい。

(編集委員)

トルコより 娘への電話

「お父さんだ。今イスタンブールのホテルから電話している」

「うん、元気。お母さんも元気だよ」

「天気はずっと良くて、10月にしては暑かったよ。本当に天気には恵まれたなあ」

「お土産？ ちょっとね」

「観光のほうは世界遺産の場所を回るのが主だけど、トルコ石やトルコじゅうたんの売場に長時間缶詰にされたのにはイラついたね」

「不満？ 水とトイレと食事だな」

「日本では蛇口をひねれば飲める水が出るし、飲食店の水はタダ。ところがこちらでは、ミネラルウォーター以外は飲んでダメ。そのミネラルウォーターも飲食店では買わなくてはならない」

「それにトイレ。備え付け

のトイレットペーパーを、そのトイレに流してはいけないというのには参ったよ」

「え、それは外国では普通なの？ あ、そう」

「食事も朝晩バイキングが多くて飽きちゃうよ」

「観光としては、ボスポラス海峡のクルーズ、カッパドキアの奇岩、パムツカレの石灰棚がよかったね」

「ホテルでも日本人が多くて国内旅行をしているみたいだったよ」

「あ、そうそう、一つへえーと思ったのがあったよ。エフェソスの遺跡の中に勝利の女神ニケのレリーフがあったのだけど、そこからニケを英語読みしてナイキの会社名にしたらしい。そのレリーフがチェックマークみたいな三角形をしているので、あのマークになつたみたい」

「じゃあ、明日日本に帰るからよろしく」

(ユーカリが丘 島田 敏晃)

夫の料理

夫が二人の昼食を作るようになってから、十年程になる。どちらも若くはない。何かあった時に困らないよう説得した。コンビニは近くにあるが毎日となると栄養面で問題だ。料理を作ったことのない夫。しぶしぶ承知したが、やり始めたらやり通す性格らしく、現在まで続いている。

実は、料理といえるかどうか。超簡単、手抜きもいところだ。野菜に関して言えば、切った野菜を蒸し器で蒸すだけ。味付けは一切なし。然し大丈夫。それもそのはず、料理家が本に書いていたので、理論的にもうなずける。栄養価が失われにくいという利点もあるそうだ。なす、ブロッコリーは色鮮やかに仕上がる。削り節、ごま、醤油、ソース、ドレッシング、その他、各自好みのものをかけて食べる。塩分、脂肪

分等の取り過ぎに気をつけられ、かえって合理的かもしれない。

夫の名誉の為に付け加えれば、かぼちやの煮物が上手になり、うす切り肉には炒める前に醤油をもみ込む。味噌汁も美味しい。少しずつ進歩中だ。

七年前、私の入院中は辛かったが、夫が昼食をきちんと食べていないのでは？と心配する必要がなく、教えておいて良かったと心底思った。我が家は日中二人だが、娘の勤めが休みの日以外、私が家族六人の夕食を作っている。当然ごく普通のものだ。

美味しく食べられるのは健康な証拠。何よりも幸せなことである。これからも、なるべく若い人達に世話をかけないよう、二人で一人前と思いたい、ぼちぼち暮らしましう。

(白銀 都築 洋子)

鳩

我が家の狭い庭に陽除けを兼ねたブドウの木がある。小粒のデラウエアが30年来甘い実をつけ続けている。種なしの処理や剪定もしないの

で、形も悪く子供達には人気がないが、ご近所さんや友人達は甘い甘いと言って下さる。

その棚に昨年も鳩が巣作りをした。素材の小枝はほんのわずかでブドウの蔓と棚の針金を巧みに利用した実に粗末なもの、下から透けて見え大丈夫かと心配になる。

やがて、産卵があり夫婦相互に温め、50センチ離れた所にある家の雨戸の朝夕の開け閉めの騒音にもじっと耐えている。「ごめんね」「大丈夫だよ」と声をかけつつ見守る。

そしていつの間にか、二羽の雛が孵り、子育てに忙しい親鳥の留守にも雛は動かさず鳴

かずじつと大人しく待っている。外敵から身を守る術を受け継いでいるのかと感動する。

灰色のかたまりがだんだん鳥の形となり親鳥とほぼ同寸になり、巣の外の枝を歩いたり羽ばたきを始め、ある朝あつさりと巣立っていった。

「立派になれよ」と見送りながらちよつと寂しい。時々近くの電線に止まる鳩を見ると、「もしやあの子では？親バカみたい」と苦笑しつつ思う。今年もまたおいで、と。

(城 中下 雪江)



麻雀の友

健康麻雀の会を高年齢者の仲間と作って2年が過ぎ3年目になりました。数名の女性から麻雀を知りたいとの話があり、それでは会を作りましょうと始めました。現在女性9名男性11名計20名で月に1回集まっています。

飲まない、吸わない、かけないを標語にしていますので開始当初は男性の参加は少なく1卓を交代でやりくりしていました。女性は初めて体験する方が多く、初歩からのスタートで半荘を終えるのに3時間近く掛かることも度々でした。

2年目に入りますと熱意を持って続けているのを見て、参加してみるかと言う男性も増えてきて、今では毎回3、4卓を使用しています。

3年目になった今では、初めて麻雀に接した女性の中に男女合わせた全員のうちでベ

スト5に入る程上達した方もいて、男性陣も対戦中は緊張している様子です。

皆さんの成績も勝ったり負けたりとの繰り返しで、年の終わりには勝ち負けの差はあまりありません。それでもこの会の仲間はこの2年間で役満を計7回も上がっています。

頭と手先を使うので、その日が終わると適度な疲れがありますが、衰えを防ぐのに効果があると勝手に自分に言い聞かせています。会を開いてから生活にリズムが出来て気持ちに張りがあります。

そしてなによりも良い仲間が増えてよかったです。仲間が元気である限りは続けていきたいと思っています。

(上志津 宮下 修)



4月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鍋木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

さくら道

去る2月16日は佐倉市民カレッジ18期生の卒業式だった。総長（市長）をはじめ市の教育関係者、公民館職員、先生方と約300人の在校生に送っていた。記念パーティーを含め、楽しい一日だった。入学時100人の仲間が90人に減ったが、自分も含め10人が皆勤賞をいただいた。万病持ちの自分がよくもまあ続いたものだと思うが、先

生方、カリキュラム、仲間達の魅力に引かれ通った結果であった。しかし自分の体調に加え家族の支えのお陰と感謝している。

最近妻の体調が思わしくなく、自分も一緒に行動することが増えた。今更ながら家族全員の健康の大切さを痛感している。出来れば更に10年、夫婦共に元気で5人の孫達の成長を楽しみたいと願うこの頃です。

（稲田 圭佑）

あとがき

今月は春らしく、楽しい明るいエッセイが揃いました。

「トルコより娘への電話」娘さんとの電話のやり取りが楽しく伝わってきます。海外旅行で日本の良さが再認識できるという事ですね。

「夫の料理」御二人で「ぼちぼち暮らしましょう」という雰囲気です。素晴らしい。高齢化が進む中で良い生活のヒントが沢山あるようです。

「鳩」佐倉市周辺には自然の豊かさがまだ沢山残っています。庭に平和のシンボルが飛んでくるなんて、素晴らしい。毎年来て欲しいですね。

「麻雀の友」私も麻雀を楽しんでいます。頭と手先の運動になり、高齢者には良い遊びだと思えます。近頃、女性の勝負強さに脅威を感じます。

皆様、身近な楽しいニュースを気軽に寄ってください。

（大蔵 康次）